

共同で平和な世界を作っていくと言う運動を進めるためには、必要不可欠の物と思います。よそ行きの短期間でなく、2ヶ月間という月日を通して裸の付き合いをする事によって、若者達が本音で世界の将来について話し合い、論議し、連携し合う事ができるこのプロジェクトは、日本がアジアのリーダーとして大きな役割を担っていくためには、絶対に必要な物であると考えられます。今日本は様々な危機に直面していますが、アジアの国々から見れば遥かに大国であります。事業を縮小する事なく、アジアのリーダーを名実ともに続けていくためにも、「世界青年の船」事業の発展的継続と予算確保を切にお願いいたします。

## 「世界青年の船」事業について

Jose Nicholas Rojas

第24回「世界青年の船」事業 指導官

ベネズエラ政府 外交官 (参事官)

私はここに「世界青年の船」事業の重要性と意義を日本国の政府当局の方々にお伝えするためにこの請願書を書いている。

私は第11回「世界青年の船」事業の参加者（ベネズエラのナショナルリーダー）であり今年1月から3月に行われた第24回「世界青年の船」事業の指導官であった。両方の異なった機会では他に類を見ないような個人の成長と学習を体験した。このプログラムは深い意味での忍耐、他の文化と価値観の尊重、そして相互理解を教える。これらは戦争や抗争が未だに辛い現実である今日の世界に必須の価値観である。従って「世界青年の船」事業はどのようにして平和構築、社会的多元性と共存の行為者となるかを教える人生の学校といえるのである。

この忍耐、文化理解、そして社会的多元性は、船上での他の素晴らしい経験が加わって完結する：それはリーダーシップと責任である。こうしてプログラムは、この困難な世界に責任と自覚のある市民を形成し、社会変革、世界平和と民主的な社会的多次元を可能にする実践的な行為者を作り出すのだ。

今までの蓄積した実績を思えば、我々はこのプログラムの目的や有用性についてはっきりとした展望を持つことができると思う。そして「世界青年の船」事業の奇跡ともいえるべき効用は少なくとも45日間に及ぶ期間、船上で共同生活をするのみで可能となるといえる。なぜならばその経験のみが人生を変えるような活動に必要な条件や、最終結果：つまり、責任を持って他者を気遣い、文化理解の重要性、あるいは平和や民主主義を促進するリーダーシップや個人の役割についての鮮明なビジョンを持つ人間を作るのに必要な、いわば実験室のような条件を再現することができるからだ。

## 「世界青年の船」事業について

Rabinder N. Malik, Ph.D.

第10回「世界青年の船」事業 指導官

第11回「世界青年の船」事業 主任指導官

元国連大学学長室長

慶應義塾大学 非常勤講師

シニア客員研究員 TERI

国連大学を退職してすぐに、私は第10回「世界青年の船」事業の指導官として招かれ、「21世紀の国際連合のビジョン」についてのセミナーを実施しました。私はこの「世界青年の船」事業という素晴らしいプログラムに魅了され、第11回「世界青年の船」事業の主任指導官という役割を喜んで務めました。約300人の参加青年のうち約半数が日本人、残りの半数が約15カ国の異なる国から来ていました。客船につぼん丸で焼く2ヶ月を共に過ごし、私たちはまるで一つの大きな家族のようになりました。参加青年が異なる国から来たこともあり、船はまるで小さな国連のようでした。船上で過ごすことの意義とは、参加者が全員、朝から夜まで一つ屋根の下で過ごし、飲食を共にし、共に交流し、勉強し、それによって結束していくのです。そして、互いのプレゼンテーションから、お互いの文化についても学びます。国連組織に40年以上勤務していた私にとって、それはまるで、国連での仕事を継続しているようなものでした。と言うのも、国際交流を促進し、世界の若者の相互理解を深めるという「世界青年の船」事業の目的は、国連の活動目的と非常に似ていたからです。そして、この事業を通じて、生涯の友を得ることができます。「世界青年の船」事業への参加は、とても実りのある冒険のようなものであり、また、参加青年にとって、学術的な学びと恩恵を多く得られる経験です。参加するための準備として、多くの活動も必要とされています。日本参加青年は、英語あるいはほかの言語で、外国から来た参加青年と日々交流しなければならない体験から恩恵を得ますし、異なる文化や背景の人たちとやり取りをしなければならないことで、自信をつけます。外国からの参加青年は、日本でのホームステイや船上での活動を通して日本人のマナーや習慣についてより深く理解をすることができ、非常に多くの恩恵を得ることができます。これらすべての結果は、「世界青年の船」事業が日本政府が主催する事業の中でも最も素晴らしいものの一つであり、日本と外国の青年の世界観に多大かつ長期間に及ぶ影響を与え、彼らの異文化に対する対応力をつけさせることができるという考えの裏づけとなります。

## 「世界青年の船」事業について

Vasileios Tikos

第22回「世界青年の船」事業 指導官

環境、エネルギー気候変動省

IT部門—プレスオフィス

サステナビリティ トレーナー

「お金を貯めるためには支出を削減しなければならない。」これは正しい言い分である；それどころか奥妙な真理である。正しい言い分の反対は間違った言い分であるが、奥妙な真理の反対はこれもまた奥妙な真理であるかもしれない。そして「世界青年の船」事業に関していえば、これが他に類を見ない、良く練られた教育プログラムであり、本当の費用はお金では測り得ないものであり、参加青年の未来とグローバル社会全体の希望の大きさとして測られるべきものなのであるということが言えるのだ。

このプログラムは外界からの邪魔のない、自らを見つめることができる孤立した環境である船上で行われる。この旅はある一定以上の期間—大抵一ヶ月以上—行われるため、参加青年間の結びつきが強まるにつれて個人の殻が崩れていく。参加青年は日常生活に隠れていた新しい自己、新しい能力、可能性を発見していくのである。この旅全てが真の発見の旅となり、自己を取り巻く環境全てを新しい視点から見ようになる。教育的観点から言うと、これは計り知れないほど貴重なものである。

今日の経済のグローバル化は我々が孤立することができず、生き延びるためには世界の他の地域との結びつきの必然性を意味する。環境、インターネットガバナンス、貧困や国際テロリズムのような広く多様性を秘めた現代のグローバルな問題の解決には国家間の協力を必要とする。多岐に渡る分野での実務家—科学的協力、学術研究、ビジネス、マネジメント、教育、健康、文化、政治、外交、開発等々に携わるもの—は異文化間コミュニケーションの重要性を認識し、必須であるとしている。この点で「世界青年の船」事業はこれらの世界規模の問題を解決、協力し、そのツールを与えることができる、将来のグローバル市民にとっての最高の学校である。私はすべての人が「世界青年の船」事業に参加できていけば良いと思う；そうすれば世界はすでにより良い場所になっているはずなのだ。

私は賢者の道とは将来を見通す能力であると強く信じている。あなたがこのプログラムの真の価値を認識し、賢明な決定を下すと確信している。経済危機というものは一般的に価値や本質にとっての根深い危機であることを露呈する。「世界青年の船」事業がさらに豊かなものなり、世界で最も重要なものは我々の足元にあるのではなくこれから向かってこうと決定する方向性にあるのだと証明することで、この危機に抵抗することができる。このプログラムを継続することを保証し、今一度、日本が現在も、そして将来も国際教育プログラムのパイオニアであり続けることを証明していただきたい。結局はクラウドモザー博士がかつて言ったように「教育には金がかかる。しかし無知のほうが長い目で見るともっと金がかかるのだ」